

守りたいのは いのちです。

私は旧満州国(現中国東北部)ジャムス生まれです。
 母は私をおぶって満州鉄道、ソウル、アソを経て
 下関まで舟で帰った様です。中国残留孤児の
 予備として出る度に母は四国、鹿児島の「知り合の村」
 にもお連れを頼み見とけと私に電話で命令します。
 幼い私に堂々といふお母さんの姿が、母はとて
 もは戦後にはない、という言葉は胸に落ちて
 いるのです。私の父は陸軍で居ました。
 敗戦10日前にフィリピン、ルソン島、カガヤン山脈で
 傷病兵をとり、赤十字の旗と掲げ、この地に
 鬼、毒米、米に爆弾を散らし、人殺しを
 仇取れと祖母の言いつけで育ちました。
 私と私の家族、中国残留孤児の子孫経験と
 証もいせたくありません。医療は人の生命を守る
 仕事です。戦争は医の倫理の
 最も不可行な行為です。解釈改憲をすすめる
 医師の地域偏在、診療科偏在の解消のみに
 やって欲しいものです。
 本邦の国を守るから戦争放棄しかないと考えます、



公益社団法人
全国自治体病院協議会 会長
邊見 公雄

邊見 公雄

〈賛同者の方々〉



神戸常盤大学短期学部
口腔保健学科教授
足立了平



松本歯科大学名誉教授
笠原 浩



精神科医
香山リカ



佐久総合病院
地域医療部 医師
色平 哲郎



長崎大学元学長/
長崎大学元医学部長
土山 秀夫

医師・歯科医師は『安全保障関連法案』の強行に反対します。

各賛同者のメッセージはHPに掲載